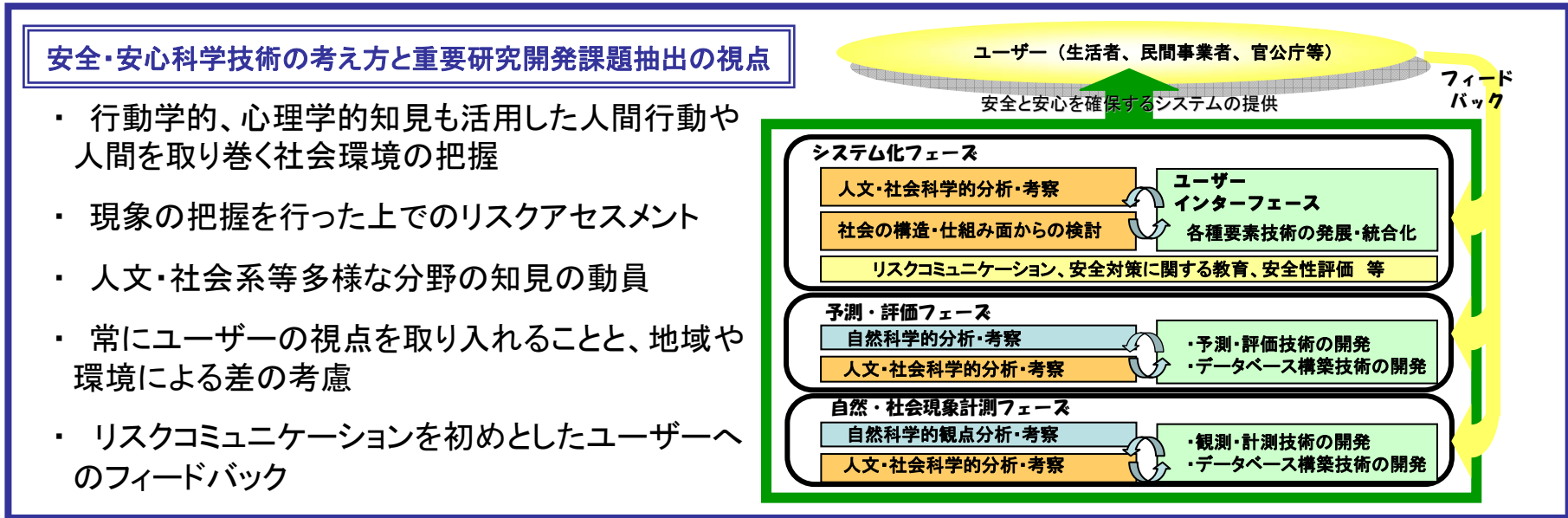


「安全・安心科学技術プロジェクト」 の管理手法について

平成20年10月6日
科学技術・学術政策局
安全・安心科学技術企画室

1. 「安全・安心科学技術の重要研究開発課題について」

特に、国民の「安心」感に着目して、安全・安心科学技術の重要研究開発課題について安全・安心科学技術委員会において、検討を行い、平成19年7月に結果をとりまとめ。



重要研究開発課題の例

＜安全・安心科学技術を支える基盤研究＞

- ・社会現象計測研究
- ・社会現象予測・評価研究

＜社会的課題に対応した研究開発課題＞

- ・大規模自然災害リスク評価・監視システムの開発
- ・災害情報通信システムの開発
- ・社会インフラの管理
- ・情報通信ネットワークの安心確保
- ・テロ・犯罪等で使用される危険物の検知・処理
- ・不審者検知システムの開発
- ・子ども・高齢者の危険状態検知・発報システムの開発
- ・子ども・高齢者の事故予防
- ・疾病予防・健康増進のための健康モニタリング

2. 「安全・安心科学技術プロジェクト」平成20年度実施課題

平成20年度予算額：625百万円

重要研究開発課題の研究開発

○ テロ対策等に係る研究開発

我が国においても、テロ対策、危機管理等に関する技術の強化が必要である。これまで蓄積された基礎研究の成果を積極的に活用するため、大学・研究機関が現場と連携してテロ対策等に係る研究開発を実施。

【平成19年度採択プロジェクト】

《危険物検知》

- ・ウォークスルー型爆発物探知システム(日立製作所)
- ・ミリ波パッシブ撮像装置の開発(東北大学)
- 《危険物質拡散・被害予測シミュレーション》
- ・有害危険物質の拡散被害予測と減災対策研究(東京大学)

【平成20年度採択プロジェクト】

《化学剤・生物剤のリアルタイム検知装置》

- ・生物剤検知用バイオセンサーシステムの開発(大阪大学)
- ・生物剤リアルタイム検知システムの開発(東芝)
- 《爆発物検知(1年間のフィージビリティスタディ)》
- ・バリアー放電/質量分析による爆発物検知(FS)(山梨大学)
- ・赤外吸収によるペットボトル中液体爆発物の検知技術の開発(FS)(大阪大学)

○ 地域社会の安全・安心の確保に係る研究開発

平成19年7月の安全・安心科学技術委員会の提言「安全・安心科学技術の重要研究開発課題について」を踏まえ、平成20年度から新たに、地域社会において安全・安心を確保するため、技術開発に留まらず、地域社会を具体的なユーザーとして、現場で科学技術のシステム化を図るモデル事業を実施。

【平成20年度採択プロジェクト】

《災害時における地域の安全・安心の確保のための情報システムの構築》

- ・住民・行政協働ユビキタス減災情報システム(山梨大学)
- ・地域水害リスクマネジメントシステムの構築と実践(熊本大学)
- ・時空間処理と自立協調型防災システムの実現
(独)防災科学技術研究所)

地方
自治体
/
住民



大学・
研究機関



情報システム

安全・安心に関わる知・技術の共有化

個々の研究開発プロジェクトで得られた知見と人脈を集積し、整理・蓄積するとともに、これらの情報を、ニーズを持つ官庁や各分野の研究拠点にフィードバックする。また、安全保障に係る研究情報の公開の在り方等について検討を行う。

【平成20年度】

- ・テロ対策に係る知・技術の共有化の取組を実施

3. 安全・安心科学技術プロジェクトの今後の取組

重要研究開発課題の研究開発を進めることにより、国家安全保障、国民生活の安心と安全確保への貢献を目指す。また、この取組みを通じ、安全・安心に資する科学技術推進のための拠点の整備、関連研究者等のネットワークの構築を図る。

テロ対策等の安全・安心に係る研究開発の推進

○ テロ対策等に係る研究開発

我が国においても、テロ対策、危機管理等に関する技術の強化が必要である。これまで蓄積された基礎研究の成果を積極的に活用するため、大学・研究機関が現場と連携してテロ対策等に係る研究開発を平成19年度より実施。平成21年度においても、引き続き、危険物質拡散・被害予測シミュレーション等について、新規公募を実施するとともに、平成20年度にFSを実施した課題を本格実施。

○ 国家の安全・安心の基盤となる科学技術(新規)

平成21年度から、国の政策ニーズを踏まえ、情報セキュリティや国際的な核不拡散などの国家安全保障の基盤となる技術の研究開発を実施。

安全・安心に関わる知・技術の共有化

個々の研究開発プロジェクトで得られた知見と人脈を集積し、整理・蓄積するとともに、これらの情報を、ニーズを持つ官庁や各分野の研究拠点にフィードバックし、安全・安心科学技術推進のための拠点を整備。

地域の安全・安心の確保に係る研究開発の推進

平成19年7月の安全・安心科学技術委員会の提言「安全・安心科学技術の重要研究開発課題について」を踏まえ、地域社会において安全・安心を確保するため、技術開発に留まらず、地域社会を具体的なユーザーとして、現場で科学技術のシステム化を図る研究開発事業を平成20年度より実施。(災害時の情報システムについて公募)

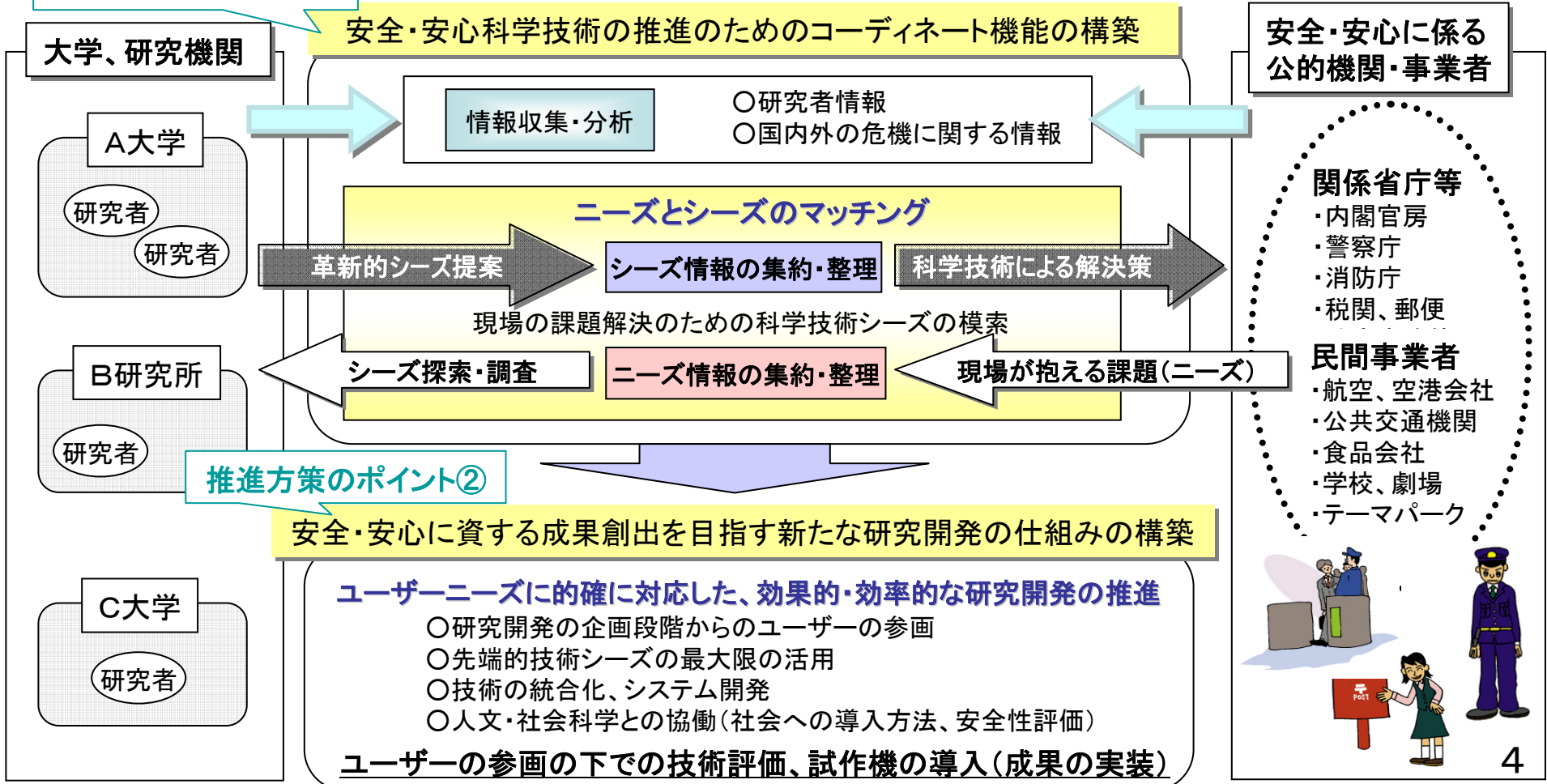
平成21年度についても、医療、インフラ保護、犯罪・事故対策等の課題に対応するため、新規公募を実施。

4. 安全・安心科学技術プロジェクトにおける基本的考え方

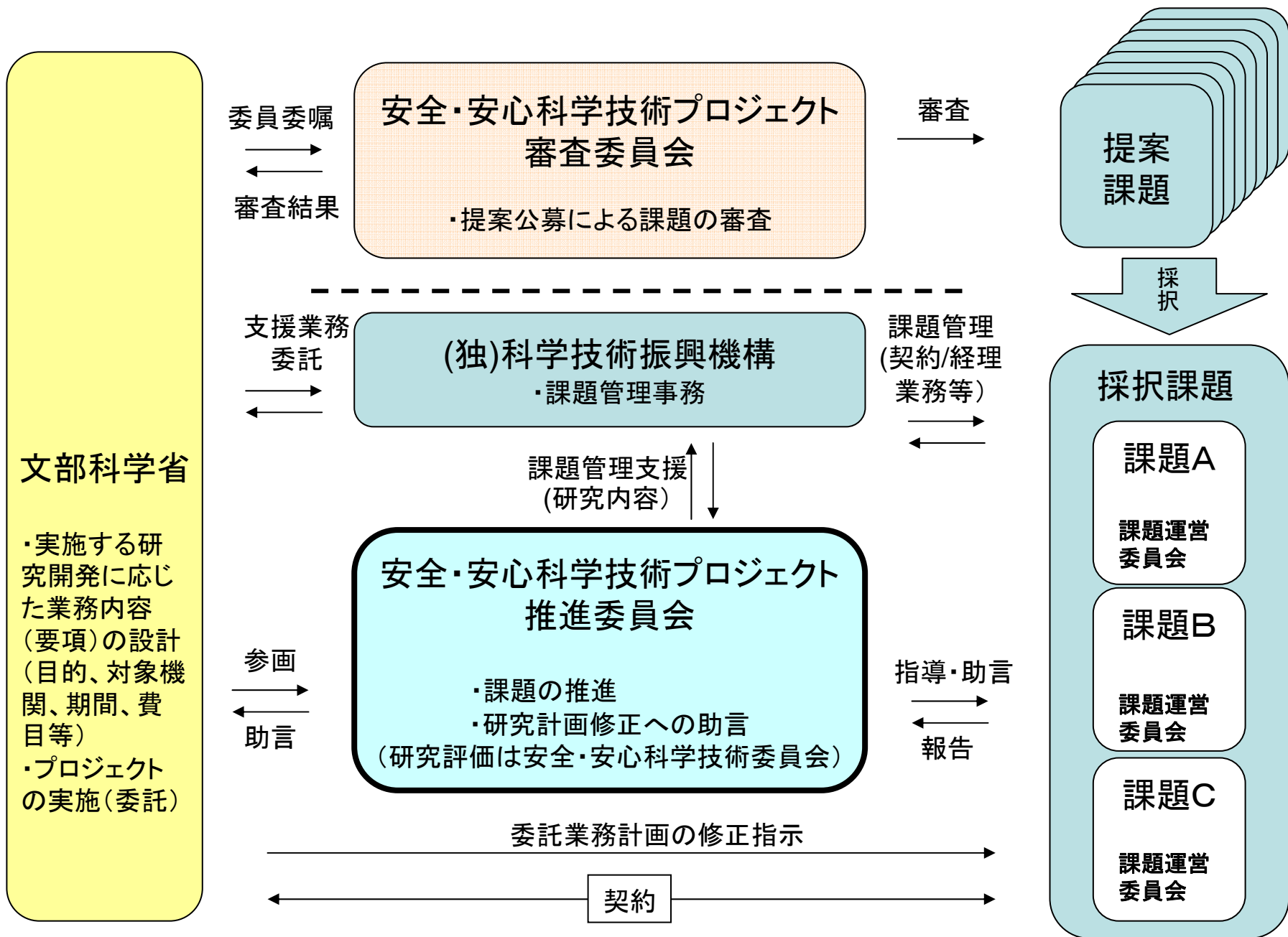
課題

- ・危機事態への対応機関(ニーズ側)
抱える技術的課題の解決に対して、有効な科学技術シーズに関する情報を入手することが困難
⇒ **先端的な科学技術の活用が十分ではない**
- ・研究開発の現場(シーズ側)
科学技術シーズを安全・安心な社会の実現のために用いる具体的な方法についての見通しが乏しい
⇒ **ニーズに的確に対応した効果的・効率的な研究開発の推進が十分ではない**

推進方策のポイント①



5. 安全・安心科学技術プロジェクト管理の仕組み



6. 公募、審査、実施に関するスケジュールの概略

	1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	4ヶ月目	5ヶ月目
公募・審査の準備 (募集要項作成等)	←→				
審査委員委嘱および 審査会日程調整		←→			
公募		←→			
書類審査(査読)			←→		
書類審査会			←→		
面接審査会				←→	
採択条件調整、 課題選定				←→	
受託者との契約					←→